

ICAN Monthly Report 3



研修の様子（ミンダナオ島）

先住民の子どもに適したカリキュラムが完成

<先住民の子どもたちの事業：担当スタッフからのレポート>

フィリピンでは、先住民の子どもたちに対しても、全国画一のカリキュラムが使用され、その結果、子どもたちの実情に合わず学力が向上しないばかりか、実生活の中で活かすことができない状態が続いてきました。そこで、アイキャンは、ミンダナオ島北部のブキドノン州において、先住民ティグワハノンの子どものために適した教育カリキュラムを作成するため、2016年3月より、先住民の学校に配属されている教師を対象とした研修を、1年間で計11回実施してきました。

カリキュラムの作成は、とても根気のいる作業となりました。幼稚園から小学3年生までの各学年において、8教科につき8単元分の作成を目標にしたため、合計256種類ものカリキュラムを作成することになりましたが、それら1つ1つに対して、参加者である教師たちは、国のカリキュラムと先住民の子どもが生活の中で習得する能力を、地域リーダーに聞いたり、自分たちで体験したりしながら確認し、カリキュラムの作成を進めて行きました。

私たちスタッフは、作業の進捗状況を表にまとめ、可視化することで、参加者が1日ごとの成果を実感できるよう心がけました。また、作業に煮詰まって進まない時には、教師が普通学校で子どもたちに教える上でも役立つ、先住民の歌や踊りを地域リーダーから習う機会を定期的に取り入れました。これによって参加者は、気持ちを切り替えることができただけでなく、他の参加者と話すことで、カリキュラム作成のヒントを得られたり、遅れないように頑張ろうと、完成への意欲を高める姿が見られました。更に私たちは、作業と発表の時間を交互に設け、参加者の集中が続くよう心がけました。

こうして、今月ようやくカリキュラムが完成しました。カリキュラムの概要だけで300ページを超え、授業案と合わせて約3,000ページとなり、経験の浅い教師が見ても分かりやすい内容となりました。これらは、新年度が始まる6月から、教育省の正式な文書として採用されます。これから何年先もこのカリキュラムが活用され、先住民ティグワハノンの子どものために、自分たちの言葉や文化を大切にしながら学ぶことができるよう、私たちアイキャンは、今後もモニタリングをしながら見守っていきます。



ICAN ミンダナオ北部
事務所 高橋奈津子
(たかはしなつこ)

～プロフィール～
名古屋大学国際開発研究科（修士課程）を卒業後、2013年から教育出版会社で営業や教育コンサルタントとして勤務。2016年4月より現職。

Project Site



●はアイキャン事業地
番号は裏面に対応

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 TEL/FAX：052-253-7299 メール：info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

①路上の子どもたち

2月11日/マニラ市(フィリピン)

清掃活動で地域に貢献



ドロップインセンターでは、路上の子どもたちが「社会に参加する」ための地域奉仕活動として、道の清掃を週2回行うことにしました。初回は15人が参加し、「近所の人に褒められて嬉しかった」(アリソン/11歳)などの声がありました。住民からは、「ドロップインセンターは、ただ食事や昼寝をさせる場と思っていたが、子どもの教育や社会参加を大切にしていると分かった」との言葉を頂きました。

②紛争の影響を受けた子どもたち

2月1-2日/タイズ州(イエメン)

紛争の最中にあるイエメンでの食糧提供



2日間で235世帯に食糧を提供し、ハッジヤ州・タイズ州において今年に入ってから届けた世帯は、2,215世帯になりました。受け取ったハジヤルさんは、「私たちは紛争のせいで家が破壊され、戦争から逃れる場所も、逃げるための手段もありません。そんな中で、このように食糧を提供してもらえることで、何とか生き延びることができます。本当に感謝しています。」と語りました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

フェアトレード事業

2月4-5日/大阪

西日本最大の国際協力イベントに出展

西日本最大の国際協力・交流イベント「ワン・ワールド・フェスティバル」にブース出展し、普段はなかなか直接会うことのできない関西地区の市民の方々に、アイキャンの活動の紹介や、フィリピンで製作されたフェアトレード商品の販売をしました。計2名のボランティアがブースを担当し、「たくさんの人と話すことができ、とても楽しかった。またぜひ参加したい。」との声を頂きました。

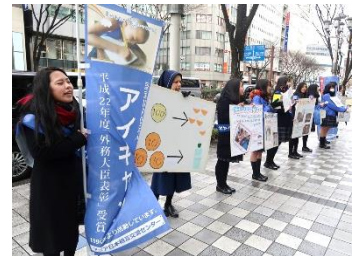


MY アイキャン事業

2月11日/愛知

スカイプで交流した路上の子どもを思って

11月に路上の子どもたちとスカイプで交流した、聖カピタニオ女子高校の生徒14名が、「何かできることをしたい」と集まり、街頭募金を行いました。2時間で170名の方から募金を頂き、参加した生徒からは、「募金を入れてもらえると、感動して涙が出そうになった」「募金してくれた人たちは、看板や私たちの呼びかけの情報だけで入れてくれたので、温かい人だと思った」などの感想がありました。



今月の Topic



相談員として、他 NGO とともに大阪へ

「ワン・ワールド・フェスティバル」に、NGO 相談員としても出張し、NGO 職員を目指す高校生や社会人、NGO を設立した方等からの相談に対応しました。相談ブースに列ができることもあり、相談者からは、「卒業後の進路や、在学中にすべきことが見えた」「今日知った助成金の申請に挑戦してみたい」などの声を頂きました。

今月の Media

2月2日 中日新聞
常滑高校での、路上の子どもとのスカイプ交流
2月4日 刈谷ホームニュース
刈谷北高校での、路上の子どもとのスカイプ交流

今月の ICAN なる人

◎内藤さん、学校や生徒さんとアイキャンを繋いでくださり、ありがとうございます！

マンスリーパートナー 内藤圭祐さん

「日本で、将来の社会の担い手を育む」

インタビュー:3月7日

私が勤める名古屋国際中学校・高等学校では、アイキャンとの連携のもと、マニラでの国際ボランティア研修を実施しています。私も引率者として2度現地を訪れました。空腹を紛らわすためにシンナーを吸い橋の下で生活をする子どもや、簡単には問題解決に至らない社会情勢など、現地では衝撃的な光景を多く目にしましたが、それ以上に子どもたちの持つ力の大きさを感じることができました。生活環境は違えど、医師、教師、スポーツ選手など、子どもが未来に向けて抱く夢に国境差はなかったことを強く覚えています。現地の人々は皆明るく、生きるたくましさを感じました。

私がマンスリーパートナーとして関わりを持たせていただいている理由は、現地の今を知るためです。私が現地を訪れた2011年には、アイキャンの活動を通してパン作りを練習している若者がいました。この蓄積は、2016年にカフェのオープンとして実を結んでいます。一方、マンスリーレポートの言葉や写真から、当時よりもゴミ山が大きくなっていることも読み取ることができます。学校で忙しさに追われていると、なかなかフィリピンに思いを馳せずに過ごしてしまいがちですが、レポートを頂いたり、アイキャンの方々と交流したりすることで、現地を振り返る良い機会となっています。

当初生徒5名と引率者の私とで始まったマニラ研修も回数を重ね、現在では延べ60名を超える高校生が、現地での衝撃を経験しました。中には、研修を経て自分の進路や職業観が変化した教え子もいます。私は日本から、将来の社会の担い手を育むことを通して、現地に貢献できればと考えています。



【編集者から一言】2017年度も「NGO 相談員」を外務省より受託することになりました！NGO に関するご質問やご相談を受け付けています。